

- カビが発生しないよう湿度を40%以下にしてください。
- 家具は底面を乾燥させるため、プラスチック製のくさびを入れて下さい。(木製のくさびを使う場合は、変色を避けるために家具とくさびの間にプラスチックシートを入れて下さい。)
- 木材は除湿器で徐々に乾かして下さい。ひびが入るおそれがあるため高温(40℃以上)や、急激な乾燥は避けて下さい。

文書被水後の腐食抑制応急処置

- 文書などは袋に入れるかパラフィン紙で包んで下さい。
- 文書は重要なものから順にラベルを付けて下さい。
- 濡れのひどい文書で特に重要なものは、冷蔵庫や冷凍室に入れ凍結した上で、弊社にご連絡下さい。



粉末消火器使用時の応急処置

一般的な粉末消火剤の成分は、リン酸アンモニアと硫酸アンモニアです。これは吸湿性が高く、放置すると金属表面、電子部分の腐食およびショートの原因となります。また、これらは硬く研磨性を有する微粒子であるためベアリングなどのしゅう動部品の摩耗の原因となるので専門的な除去が必要です。



- できるだけ設備・機器の使用を控えて下さい。消火剤で熱放出が防げられオーバーヒートを起こすおそれがあります。
- 消火剤に敏感な設備・機器の電源は直ちに切ってください。消火剤が設備・機器の可動部分をいためるおそれがあります。
- 不用意に電子基板を引き出さないで下さい。誤った電流が発生し故障するおそれがあります。
- 腐食を防ぐため乾燥状態を保ってください。
- 必要であれば設備・機器を出来るだけ覆い、乾燥状態を保ってください。

腐食抑制応急処置の有無による被害比較

腐食抑制応急処置をしない場合	腐食抑制応急処置をした場合
<ul style="list-style-type: none"> ・腐食の進行による被害の拡大 ・交換部品点数増加 ・全損 	<ul style="list-style-type: none"> ・腐食の抑制による被害の拡大防止 ・交換部品点数削減 ・全損の回避
<p>修復の可能性低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高額な交換費 ・停止期間の長期化 ・顧客の信頼失墜 	<p>修復の可能性を最大化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修復コストの大幅な低減 ・停止期間の大幅短縮 ・早期操業再開

お問い合わせ先：0120-123-677

腐食抑制応急処置



リカバリープロ株式会社
フリーダイヤル 0120-123-677(年中無休)



リカバリープロ株式会社

なぜ腐食抑制応急処置が必要なのか？

腐食抑制応急処置は、被害拡大防止対策です。出来るだけ速やかに腐食抑制応急処置を講じることで、設備・機器から汚染物質、腐食、水分を除去し進行を抑制し被害が広がるのを防ぐことが出来ます。これにより修復の可能性が一段と高まります。

一般的な腐食抑制応急処置

被害状況により、腐食抑制応急処置の方法は異なります。

以下が標準となります。

- 移動できるものは安全な場所へ搬出して下さい。
- すべての設備・機器の電源を直ちに切して下さい。テスト運転もしないで下さい。
- 被害現場に許可なく外部の人が立ち入らないようにして下さい。
- 汚染物質が土壌や排水に流れ出さないようにして下さい。被災した設備・機器にはカバーなどをかけ、水が入らないようにして下さい。
- ブレーカー、ガスや水道の元栓は切して下さい。
- 写真やノートを取るなど、被害状況を記録して下さい。

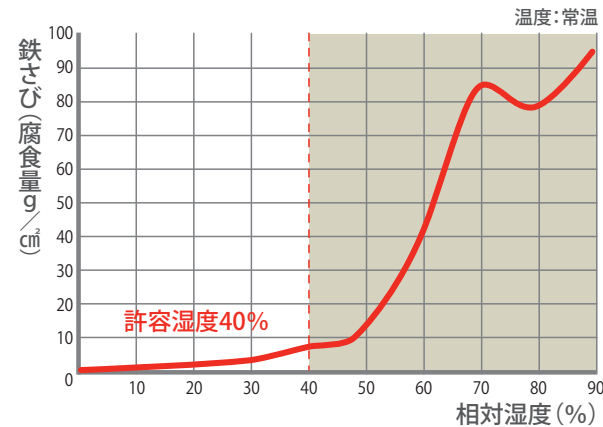


火災後の腐食抑制応急処置

- 有毒ガスが発生しています。十分に換気をして下さい。
- 必要に応じ火災警報機を設置して下さい。
- 排水溝や下水口に汚染水が流れ込まないようにカバーや栓をして下さい。
- 被水したマットなどは取り除いて下さい。
- 消火水が浸入しないように設備・機器にカバーをして下さい。
- 消火剤や水は可能な限り除去して下さい。
- 腐食が進まないように、除湿器を使い湿度を40%以下に保って下さい。
- 湿度を40%以下に下げられない場合は、防錆剤を塗布して下さい。



●腐食と湿度の関係(塩化水素存在下)



- 建物の修復が必要な場合、設備・機器を可能な限り、乾燥した場所に移し、建物内を空にして下さい。
- 被害を受けていないエリアが2次汚染がないようドアには湿ったマットや布を敷くなど可能な限り遮断して下さい。



水害後の腐食抑制応急処置

- すべての設備・機器の電源を直ちに切して下さい。
- 膨張や変色などを防ぐためできるだけ速やかに水を抜いて下さい。
- 水を含んだマット、壁紙などは取り除いて下さい。
- 設備・機器の表面に湿気を含んだすすや汚泥がある場合、ブラシを用いて水で流して下さい。
- 停電で乾燥機を使えない場合は設備・機器などは、水気を取り、乾燥剤を入れ防錆剤を塗布して下さい。
- 試運転や動作確認のために電源を入れないで下さい。
- 建屋で壁がひどくめれたり水につかったりした場合は、まずは乾燥が必要です。また、床や天井など建屋の表面にカビが発生しないように殺菌して下さい。